

真宗大谷派 存明寺通信

No.181

2017年（仏暦2548年）11月2日発行

真宗寺院のはじまり

— 感激しただろう うれしかっただろう —

仲野良俊（真宗大谷派僧侶）

一つの里に念仏の教えが聞こえてきた。そして、それまで仏法からはじかれていた民衆一人ひとりに、自ら歩むことのできる仏道がはじめて開かれた。その時、民衆は感激しただろう。うれしかっただろう…。

そして、その時思ったはずだ。この大切な教えをひとりで聞くのはもったいない。ひとりでも多くの人と一緒に聞いていきたい。

そこにご本尊を迎え、念仏の道場ができてきた。そして、そこに留守番をしてご本尊のお給仕をする人が必要になった。多くの人たちは食べていくのに精一杯で、そこに住んでご本尊のお給仕をしている暇がない。

そこで、里の中のひとりの人を選んでそのことを託した。あなたはここに住んでください。あなたの生活は私たちが守る。だからあなたは、ここでご本尊のお給仕をして、仏法の勉強をしてほしい。そして、その学んだことを私たちに伝えてほしい。これが真宗寺院のはじまりだったんだ。



存明寺HP、随時更新中 親鸞と出会うお寺

<http://www.zonmyoji.jp>

もうひとつのウサギとカメ

—あらゆることから生きることを

学んでいける「やわらかな心」—

酒井義一（釋諦信）



むかしあるところにウサギとカメがいました。ウサギとカメは、山の上の松の木のところまで競争をすることになりました。よーいどん！

ウサギはピョンピョン跳ねていきます。カメはのっしのっし歩いていきます。あつという間にウサギはゴールの手前、振り返るとカメはまだ下の方にいます。こちらでちよつと一休み。ウサギはついウトウト、寝てしまいました。やがてカメはウサギを追い越して、見事ゴールイン。それに気づいたウサギ、「しまった。油断した。」

これは皆さんよくご存じのウサギとカメの物語。ウサギのように油断をしてはいけないよ、カメのようにしつかりと歩くんだよということを教える物語です。ではもうひとつ、まったく別の物語をご紹介します。

むかしあるところにウサギとカメがいました。ウサギとカメは、競争をすることになりました。よーいどん！

ウサギはピョンピョン跳ねていきます。カメはのっしのっし歩いていきます。ふたりはタイプが違うのです。どちらが優れている

ということは、本来あり得ないこととです。

やがてウサギはゴールの手前、振り返るとカメはまだ下の方にいます。ウサギは、なんとカメを待つことにしました。しかし、ウサギはそのまま寝てしまったのです。

やがてカメはウサギに追いつきました。「しめた、寝てる、このままいけば勝てる」カメはそつとウサギを追い越します。その時、ふと「起こさなくてもいいのかな」と思いました。でも、勝ちたい。やがてカメはゴールイン。それに気づいたウサギ、「なんだカメさん、待っていたのに」

ウサギはなんとカメを待っていたというのです。一方カメはウサギを起こさずにゴールしてしまいました。自分さえよければそれでいいというカメ、待つことを大切にするやさしいウサギ。同じ物語なのに、見方を変えるとまったく違った世界が見えてきます。

私たちの世界にもこれとよく似たことがたくさんあります。

どんな出来事や物語からも、私たちは多くのことを学んでいくことができるのです。

あらゆることから生きることを学んでいける「やわらかな心」（柔軟心）をこそ、大切に育てていきましょう。

（おしまい）

教えることば

自分さえ

よければいい

この悲しさ

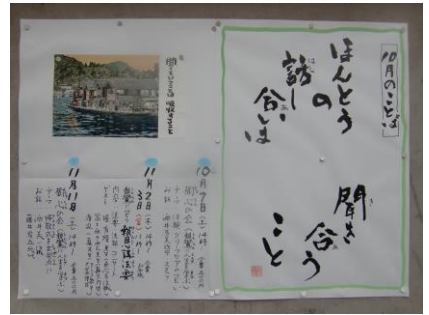
（浅田正作）

バラバラでいっしょ

—差異をみとめる

世界の発見—

（蓮如の法要テーマ）



お寺の掲示版

10月

ほんとうの話し合いは聞き合うこと

相手の話をよく聞きもしないで、一方的に話し続けることを「話し合い」とは呼ばない。お互いに相手の話をじっくりと聞き合うところに開かれるものが「ほんとうの話し合い」なのだろう。

話し上手とは、聞き上手のこと。聞くことに裏打ちされた話し合いをこそ、大切にしたい。

■こども会

2017年9月。

外遊びの予定でしたが、台風の影響で急きよ室内遊びをしました。

はじめに本堂で正信偈しょうしんげのお勤めをしました。子どもたちが澄んだ声で「邪見驕慢悪衆生」と読むところが、とつてもかわいいと思いました。

ロビーには、卓球・オセロ・ウノ・ポップコーン作りの各コーナーを作りました。みんなそれぞれの遊びを回って、楽しんでいました。

お寺の中のかくれんぼ大会、大人もこども真剣勝負でした。

■樹心の会

2017年10月。

この日は「グリーンフケアのつどい」を体感する企画。

本番さながらの雰囲気で行進し、3名の方からお話がありまし。 「参加者同士の触れ合いが人をあためる」「連れ合いの死が、教えに出遇う縁となった」「心の奥底にある気持ち、夫が亡くなつてほつとしたこと」など。

参加者からは「グリーンフケアは自分に出会う場所」「三人の言葉が心に残り共感」などの感想が。 グリーフに無関係な人はいない、いつでもここを自らの居場所いばしよにしてほしいと思っています。

■こども食堂

2017年9月。

こども32名、おとな17名、スタッフ11名の合計60名が参加。野菜たっぷりキーマカレーとタイ風カレーを作りました。

食事後に顔なじみになった子どもたちと追いかけてっこをしていたら、子どもたちが食堂のなかへ走り込んでしまいました。さすがスタッフの女性が「コラコラ、走っちゃダメ〜」と叫んで注意。そこへ私(じゅくしよく)が顔を出して「すいませんでした」とペコリ。

食堂が大爆笑に包まれました。



2017年(平成29年) お寺のひろば

◆ 11月11日(土) 2時〜 樹心の会

テーマ：帰敬式を出発点に：：

お話：藤井俊五総代・酒井義一住職

内容：勤行・お話・語り合い・全体会

◆ 12月2日(土) 11時〜 仏弟子入門「帰敬式」

3年に一度の帰敬式。法名が授与されます。

内容：帰敬式・法話・会食

※申し込みは11月3日に締め切ります。

◆ 12月9日(土) 2時〜 樹心の会

テーマ：親鸞に人生を学ぶ「私の歩み」

お話：加藤京子さん・岡田真さん・住職

内容：勤行・お話・語り合い・全体会

◆ 12月16日(土) 2時〜 グリーフケアのつどい

大切な方を亡くした人へ

―同じ体験をした人々のつどい―

内容：勤行・ミニ法話・語り合い・音楽鑑賞

◎ぞんみようじこども会

月一回

◎ぞんみようじこども食堂

月一回

◎子育てサロンいちごのへや

月一回

2018年(平成30年) お寺のひろば

1月1日(月) 10時 修正会

3月10日(土) 14時 樹心の会

3月21日(水) 11時と13時 春のお彼岸法要

3月24日(土) 14時 グリーフケアのつどい

4月7日(土) 14時 樹心の会

4月28日(土) 10時 おみがきのつどい

5月3日(木) 12時 永代経法要

5月12日(土) 14時 樹心の会

6月9日(土) 14時 樹心の会

6月23日(土) 14時 グリーフケアのつどい

7月14日(土) 11時と13時 おぼん

8月25日(土) 午後 青年のつどい

9月8日(土) 14時 樹心の会

9月23日(日) 11時と13時 秋のお彼岸法要

9月29日(土) 14時 グリーフケアのつどい

10月13日(土) 14時 樹心の会

10月27日(土) 10時 おみがきのつどい

11月2日(金) 14時 報恩講のゆうべ

11月3日(土) 12時 報恩講法要

11月17日(土) 14時 樹心の会

11月下旬(予定) 真宗本廟報恩講奉仕団

12月8日(土) 14時 樹心の会

12月15日(土) 14時 グリーフケアのつどい

★予定表にメモを。ぜひご参加下さい。



あとがき

▼今年も報恩講の季節がやってきました。浄土真宗にとっては一年で一番大切な法要。この日を迎えるまでに数々の準備を乗り越えなければなりません。

▼ある時先輩住職から、一番最後の準備が何よりも大切だと教えていただきました。それは、主催者である私が、ひとりの参詣者に立ち返るということ。私が親鸞の教えに出遇うための報恩講にすること。その姿勢を持つことが最後の準備だということです。

▼親鸞に出遇う時、報恩講。私の生きる姿勢が、親鸞から問われ続けています。(住職・釋諦仁)

東京都世田谷区北烏山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井義一

TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zommyoji.jp